

之則謂菜爲奈、謂魚爲末奈、末是褒稱、魚肉食中之美者、故謂之末奈、○中後世謂小兒始食魚肉爲真魚始皆是也、則知末奈以多謂調理魚肉之版也、

〔段注說文解字十四上〕俎、禮俎也、謂禮經之俎也从半、肉在且上、父爲半、肉字、如曾谷有半、水字、會意字也、魯牢禮上利升半載、右胖、下利升、豕右胖載於俎是也、故曰禮俎、半部曰胖、半體肉也、側呂切、五部

〔事物紀原八〕俎

明堂位又曰、有虞氏以蜃俎、注云、斷木爲四足而已、然則斷木而爲足、不致文飾、創始爲之故也、唐太宗曰、禹雕其俎、至夏乃用雕文、則俎自虞帝始也、

〔下學集下〕器財末那板此云末那板、俎板俎長四寸五分、

〔運步色葉集滿〕魚板俎

〔書言字考節用集七〕器財末那板今按末那魚之俎、順和名、又出津、切机同上

〔東雅十一〕器用俎マナイタ、倭名鈔に史記に見えし刀俎の字を引て、俎はマナイタ、開元式に云、食刀切机各一、今按するに、切机は即俎也、と注せり、マナとは魚也、イタとは板也、その魚を割く板なるをいふ也、

〔倭訓栞前編二十九〕まないた、日本紀、和名抄に俎をよめり、東鑑に魚板と書り、西土にも魚盤の名あり、按板ともみゆ、開元式の切机も是也といへり、駿河上總にきりばん、下總津輕にさいばん、信濃にまなへいたといふ、

〔和漢三才圖會三十一〕木砧、百味、棚几、和名末奈以太○中

按木砧魚板也、官女呼魚曰末奈、倭名抄云、俎和名末奈以太、以爲厨膳具者不然也、俎祭器机之、即論語序所謂陳俎豆者也、蓋形相似而用異、

〔四條流庖丁書〕俎之事并名所